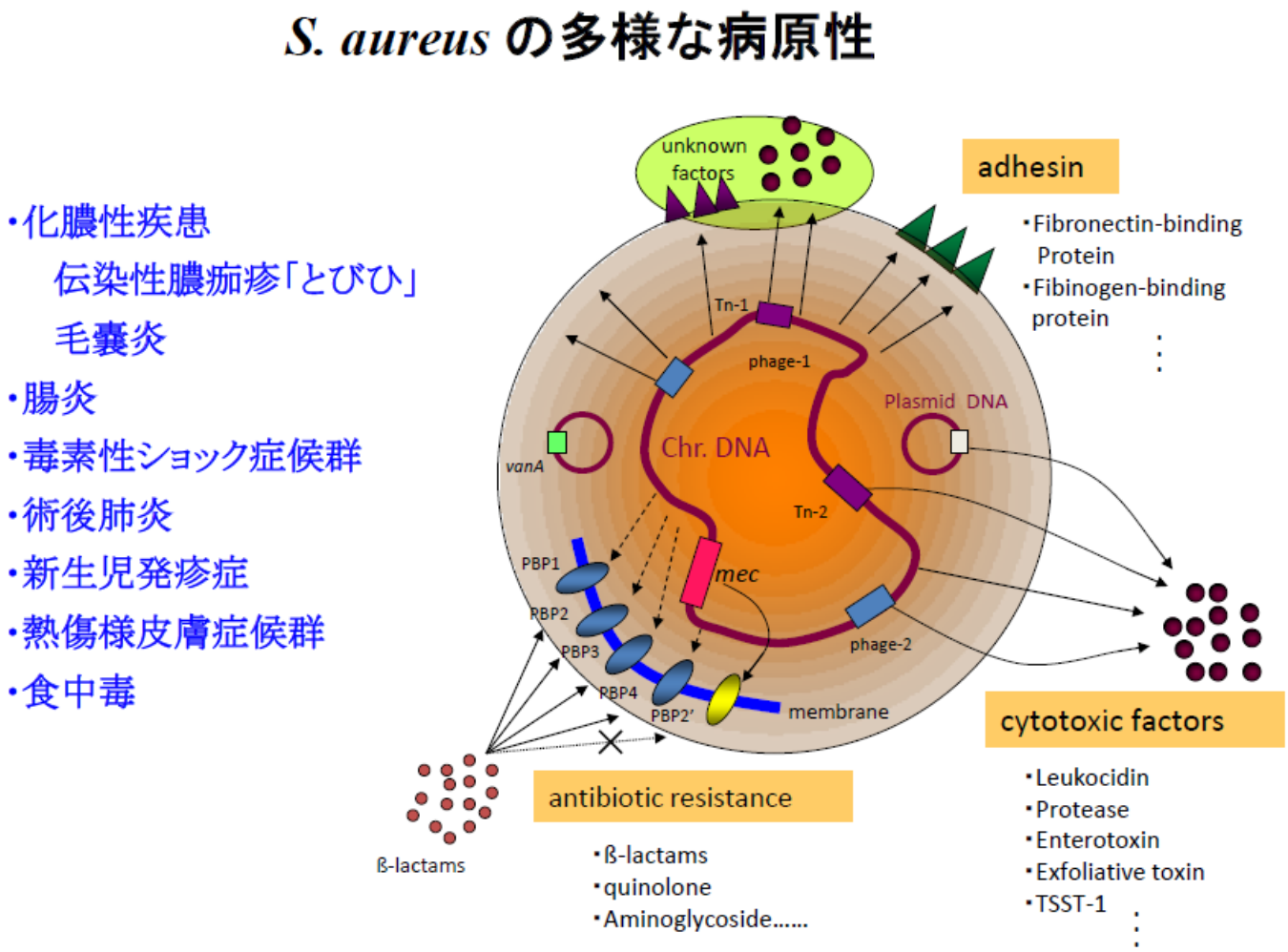
黄色ブドウ球菌

黄色ブドウ球菌はヒトに病気を引き起こす主要な細菌です。食中毒、とびひ、肺炎、種々の化膿性疾患等多くの疾患を引き起こすことが知られています。このような多様な疾患を引き起こす理由として本菌が非常に多くの病原性因子を有していることがあります。食中毒の原因であるエンテロトキシン（腸管毒）、とびひの原因である表皮剥脱毒素、ショック症状を引き起こす原因である TSST-1 などがあります。また、最近の研究で黄色ブドウ球菌は生体に感染する際に生体からの感染防御因子に対しても巧みに抵抗性を示すことが明らかになってきました。

感染症の際には化学療法剤（抗生物質）が頻用されますが，近年の黄色ブドウ球菌は多くの薬剤に耐性を示します。特にメチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）は化学療法剤の中で良く使用されるβ−ラクタム剤に耐性を示し、病院内感染菌として大きな問題になっています。また、近年では MRSA の有効な治療薬とされるバンコマイシンという化学療法剤にも低感受性あるいは耐性を示す菌の出現も報告され今後さらに MRSA 感染症の治療が懸念されています。